

協 同

[特集] より多くの声をJA運営に
准組合員の意思反映について

2021
Oct
KYODO 10



タッグ!兵庫の農業人

新しい品種のぶどうにより、
産地の活性化をめざす

FARMER × JA staff
菅野 孝誠さん
玉田 篤志さん
詳細は
農委へ

兵庫の農業人

生産者の皆さんとタッグを組んだ
多様な営農活動を紹介します。

タッグの様子は動画でも配信中!

▶ YouTube で 兵庫の農業・農協発信ch 検索



▶ 今月は JA兵庫みらい

新しい品種のぶどうにより、 産地の活性化をめざす

ブラックビートの出来栄えについて話す菅野さん(左)と玉田さん



生産者

加西市ぶどう部会副会長
菅野果樹園
菅野 孝誠さん

加西市産ぶどうの美味しさや魅力をより多くの人に知ってもらおうきっかけとなるように、ブラックビートをアピールしていきます!また、新規就農者や後継者育成にも尽力します!



JA職員

JA兵庫みらい 加西営農生活センター
営農相談員
玉田 篤志さん

栽培講習会の開催や、ブラックビート栽培にかかる情報提供と環境づくりに力を入れています!また、消費者との交流から生産者の意欲向上につながるような品評会開催に向けて取り組んでいます!



加西市は特産品「加西ゴールデンベリーA」をはじめ、古くからぶどう栽培が盛んである。しかし、近年は、生産者の高齢化や後継者不足により栽培面積が縮小するとともに、消費者の嗜好の変化により加西ゴールデンベリーA等の中粒系よりも、大粒系のぶどうが好まれるようになった。

そこで、JA兵庫みらいは平成 28 年度から大粒系のぶどう品種「ブラックビート」の出荷を開始した。加西営農生活センターの営農相談員である玉田篤志さんは、3年前からぶどう生産者への資材供給や出荷対応等を担当しており、ブラックビートの認知度向上に向けて取り組んでいる。

玉田さんは、その足がかりとして、青果市場への出荷、販売対策に比重を置いた。出荷数の減少は、ぶどう産地としての知名度や評価が下がることにつながると考えたからだ。そのため、ブラックビートを大阪や神戸など大消費地の卸売市場へ積極的に出荷し、POP広告やのぼり旗の作成といった販売促進活動に取り組んだ。また、

新たに出荷マニュアルを作成し、栽培や出荷にかかる講習会を開催するとともに、既存の栽培者が新たな品種を出荷しやすい環境づくりを行った。

ぶどう生産者の菅野孝誠さんは、JA兵庫みらいのブラックビート出荷開始と同時期から出荷を行っている。菅野さんは「加西市が関西一番のぶどう産地として全国的に知れわたるように頑張りたい。また、新規栽培者の育成にも力を入れていきたい」と話す。

JA兵庫みらいは、「ゴールデンベリーA」と「ブラックビート」の2本柱によって加西市のぶどうの生産拡大と活性化に努めていく。

加西市がぶどう産地として活性化を図る取り組み

新しい品種を積極的に出荷

大粒系ぶどう「ブラックビート」の青果市場への積極的な出荷により、新たな特産品産地としての知名度や評価の向上をめざす